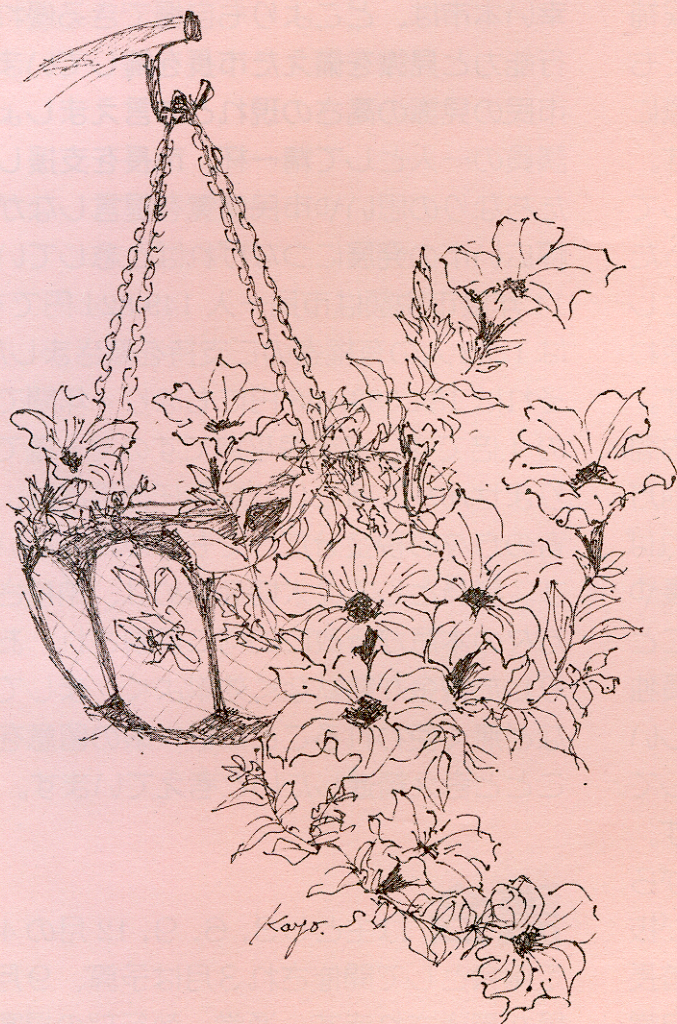


みほ倶楽部

平成15年12月

サフィニア は バイオで作ったペチュニアの化身

洋酒のサントリーがつくった花
国際的にはウィスキーより有名



なぜ 酒屋さんが花づくり
お酒を造る酵母菌の培養技術が
花苗作りにそのまま役立ったから
工場生まれの試験管ベビー

なぜ 培養しての花づくり
ペチュニアは南米原産 原種交配
生まれの一代雑種 親と同じ物
作る為のクローン。挿し木や接ぎ木
と同類

似たものに
最近廉くなったランの花
これも 培養で大量生産
できたため

＝野菜や花、作物育種のバイオは＝青いカーネーション、バラ。日持ちする完熟トマト。

人参の色素入り稲。酒醸造用の低蛋白質稲。アレルギー抑制稲。漢方薬材料等 遺伝子操作は
多方面だが相性もあり簡単にはいかない。交換できても元の性質が保てない、予測する性質の
発現が簡単にいかない、研究費がかさみコストも課題、更に難関は消費者の反対、当面は食物
に関係ない花への研究が先行するだろう

＝遺伝子操作が問題にされる食品は＝大豆、ナタネの除草剤耐性（雑草だけ枯れる）

ジャガイモ、トウモロコシは害虫抵抗性 農薬会社が農薬の代用、農薬散布効果の効率化を
目的に開発したもの

園芸育種の研究所で前千葉大副学長伊東正所長 主任研究員石川恵子博士に伺いました